





永春水作
明久吉

四編下

什題曲豆因

持持



ろ
ろ
ろ
ろ

四編上



毎歳予が著し冊子の縛倉卒の間綴る何れも鹿漏ありぬ
あはれ去に檢み殊更繁業く、這前四編の草稿の早晩より最後
まふ書賈へ頼み發兌を急げ予が校訂と往々間小賣出し
所しるるも駭きなり、圖を果しと誤寫あり落字あり画も又これ
準ひてかの粧ひと喚ぶ女の口画と文下と其の顔異あり、這口画
りて本と違ふ、僕が画稿ありけるは、製本のうへあれば復り
とも詮術あり、速莫くも捐むべし、あつては画様の直さく巴とり
そ、俗にせし、俗もせんが本文の誤り、再刷の日改正せし、後
摺出と巻をえり、疑ひを解き、あひねし、爰に演るも遅時の業
さへ青に蕃椒辛くも編一五篇の端小言談より筆を授け

安政七庚申総陽春



爲永春水誌

鶴田玄湖書





奇王



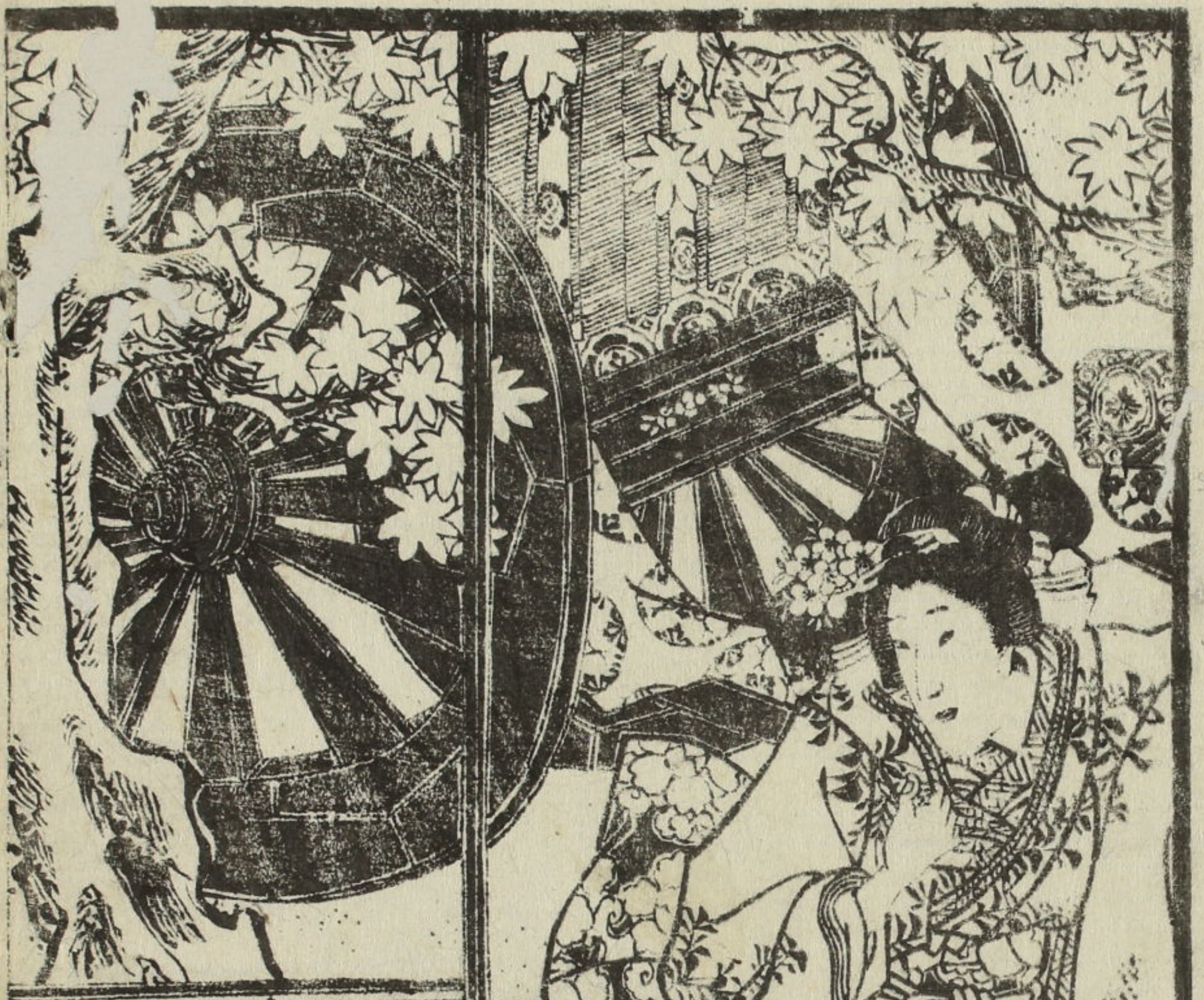
三

一の巻





154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538
 539
 540
 541
 542
 543
 544
 545
 546
 547
 548
 549
 550
 551
 552
 553
 554
 555
 556
 557
 558
 559
 560
 561
 562
 563
 564
 565
 566
 567
 568
 569
 570
 571
 572
 573
 574
 575
 576
 577
 578
 579
 580
 581
 582
 583
 584
 585
 586
 587
 588
 589
 590
 591
 592
 593
 594
 595
 596
 597
 598
 599
 600
 601
 602
 603
 604
 605
 606
 607
 608
 609
 610
 611
 612
 613
 614
 615
 616
 617
 618
 619
 620
 621
 622
 623
 624
 625
 626
 627
 628
 629
 630
 631
 632
 633
 634
 635
 636
 637
 638
 639
 640
 641
 642
 643
 644
 645
 646
 647
 648
 649
 650
 651
 652
 653
 654
 655
 656
 657
 658
 659
 660
 661
 662
 663
 664
 665

[illegible][illegible]

りんごのこ
 まねとらぬもせな
 よそをひくはれり
 そろしけはる
 そのまゝかたうい
 えすにやゆた
 ろうめれば
 ゆかにふ
 うそを
 まじき
 よむ
 つくあ
 びふ



彈正忠盛
繪
り

[illegible][illegible]



卷之五

〇あめちうとこの
 ぐんあまのり
 りのちんさやうこ
 くのぞ
 〇あめちうとこの
 ぐんあまのり
 りのちんさやうこ
 くのぞ
 〇あめちうとこの
 ぐんあまのり
 りのちんさやうこ
 くのぞ

[illegible]

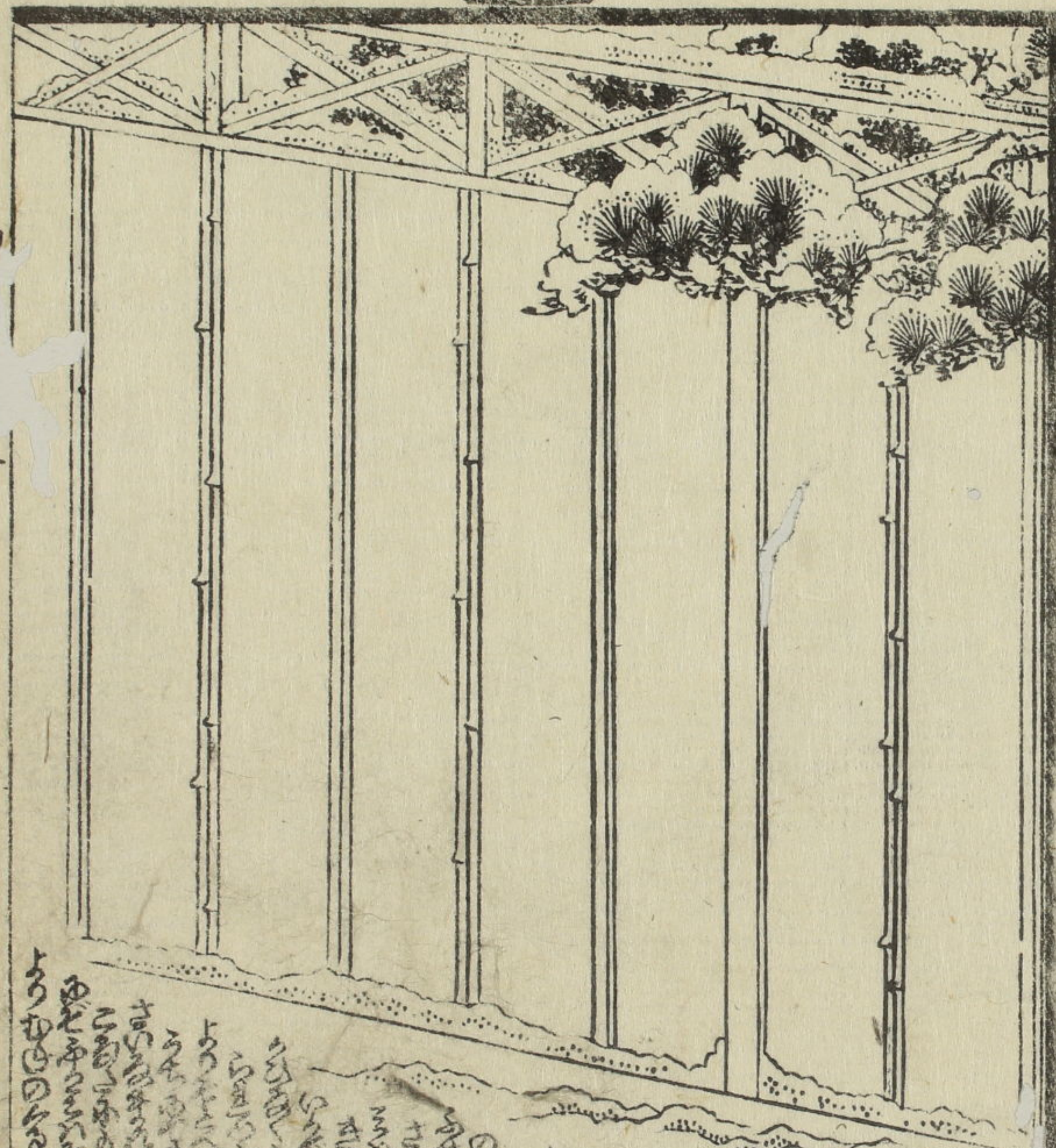
あまのうづん
トヤシラ
はつとよき
ふくみ
さかめ
せんとうろ
あめの
りもち
七廿の
あめ
ふ



ぐんぐんあふく
 まるまるとん
 せうとゆの
 うふふふ
 げんもの
 なまそ
 ぐんぐんあふく
 まるまるとん
 せうとゆの
 うふふふ
 げんもの
 なまそ

愛

[illegible][illegible]

[illegible]

一ノノ
 二ノノ
 三ノノ
 四ノノ
 五ノノ
 六ノノ
 七ノノ
 八ノノ
 九ノノ
 十ノノ
 十一ノノ
 十二ノノ
 十三ノノ
 十四ノノ
 十五ノノ
 十六ノノ
 十七ノノ
 十八ノノ
 十九ノノ
 二十ノノ
 二十一ノノ
 二十二ノノ
 二十三ノノ
 二十四ノノ
 二十五ノノ
 二十六ノノ
 二十七ノノ
 二十八ノノ
 二十九ノノ
 三十ノノ
 三十一ノノ
 三十二ノノ
 三十三ノノ
 三十四ノノ
 三十五ノノ
 三十六ノノ
 三十七ノノ
 三十八ノノ
 三十九ノノ
 四十ノノ
 四十一ノノ
 四十二ノノ
 四十三ノノ
 四十四ノノ
 四十五ノノ
 四十六ノノ
 四十七ノノ
 四十八ノノ
 四十九ノノ
 五十ノノ
 五十一ノノ
 五十二ノノ
 五十三ノノ
 五十四ノノ
 五十五ノノ
 五十六ノノ
 五十七ノノ
 五十八ノノ
 五十九ノノ
 六十ノノ
 六十一ノノ
 六十二ノノ
 六十三ノノ
 六十四ノノ
 六十五ノノ
 六十六ノノ
 六十七ノノ
 六十八ノノ
 六十九ノノ
 七十ノノ
 七十一ノノ
 七十二ノノ
 七十三ノノ
 七十四ノノ
 七十五ノノ
 七十六ノノ
 七十七ノノ
 七十八ノノ
 七十九ノノ
 八十ノノ
 八十一ノノ
 八十二ノノ
 八十三ノノ
 八十四ノノ
 八十五ノノ
 八十六ノノ
 八十七ノノ
 八十八ノノ
 八十九ノノ
 九十ノノ
 九十一ノノ
 九十二ノノ
 九十三ノノ
 九十四ノノ
 九十五ノノ
 九十六ノノ
 九十七ノノ
 九十八ノノ
 九十九ノノ
 百ノノ



おのれを
せんが
うら
うら

おのれを
せんが
うら
うら

おのれを
せんが
うら
うら



おのれを
せんが
うら
うら

おのれを
せんが
うら
うら

おのれを
せんが
うら
うら

春水侏 國貞画

花封苔玉章
初篇第二十三



春水
貞画
花封苔玉章
初篇第二十三

画の文の彩色あれ先本文を熟讀く後小その画を見るときは
文意の詳く當時の人情世態を寫し聲をきき知る
いそぐ人余るを近屬せりくも合巻とるの基こそ婦幼の
玩具なり。画様小趣きめられそ。作風と入るるは奥かきと
手ふさもあれ。仍く画藁小案と擬。作意と後小まる夏より遠い
予が真面目あるは是非ともあれ。戲墨のうき速く時候あつた
老悖ゆきと三日月せん。せむきなり。余も又も流行ふかきと咲色香し
早晩の薄倂と復櫻木小彫卷の替らぬ春小遇ふ夏あり

庚申陽春

爲永春水記

鶴田玄湖書





南の女
帝の
草
内
浦



曲多國

芳辰
田丸
晴



小姓顔世

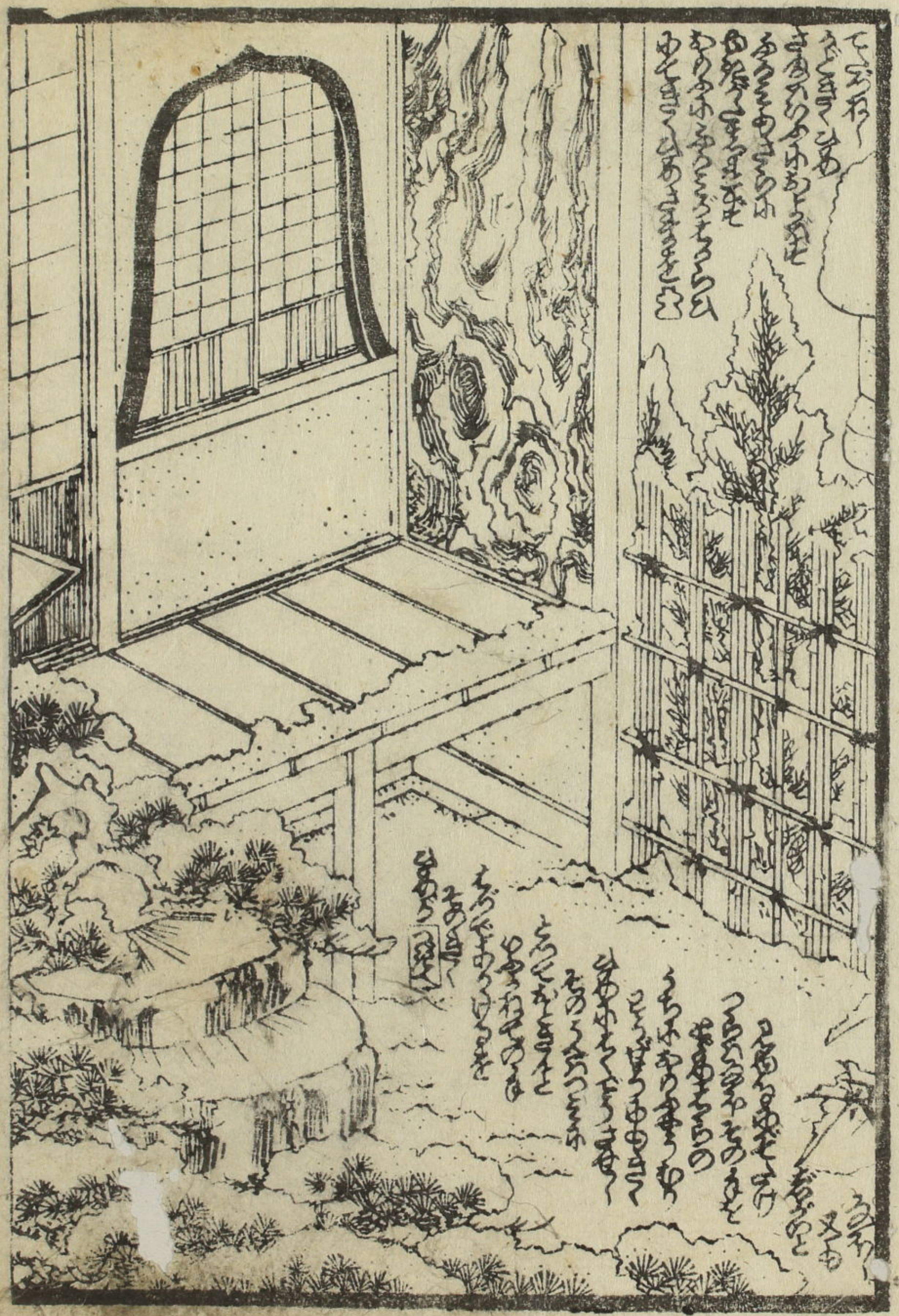
小姓美目助



盗賊の首領
炭水童女

曲五団全



[illegible][illegible]

五つとあるうへに
うらまゝしんやい
のちうもさうあ
げきでかゝるもの
上役のやうな
ふたりのおんなは
さういふやうな
がうゝねばとて
くろこまのよど
そとでせが
さういふこと
まち

せん
ぞをゆ
うぜん
まをぬの
ぐいの
よう

三のすけ

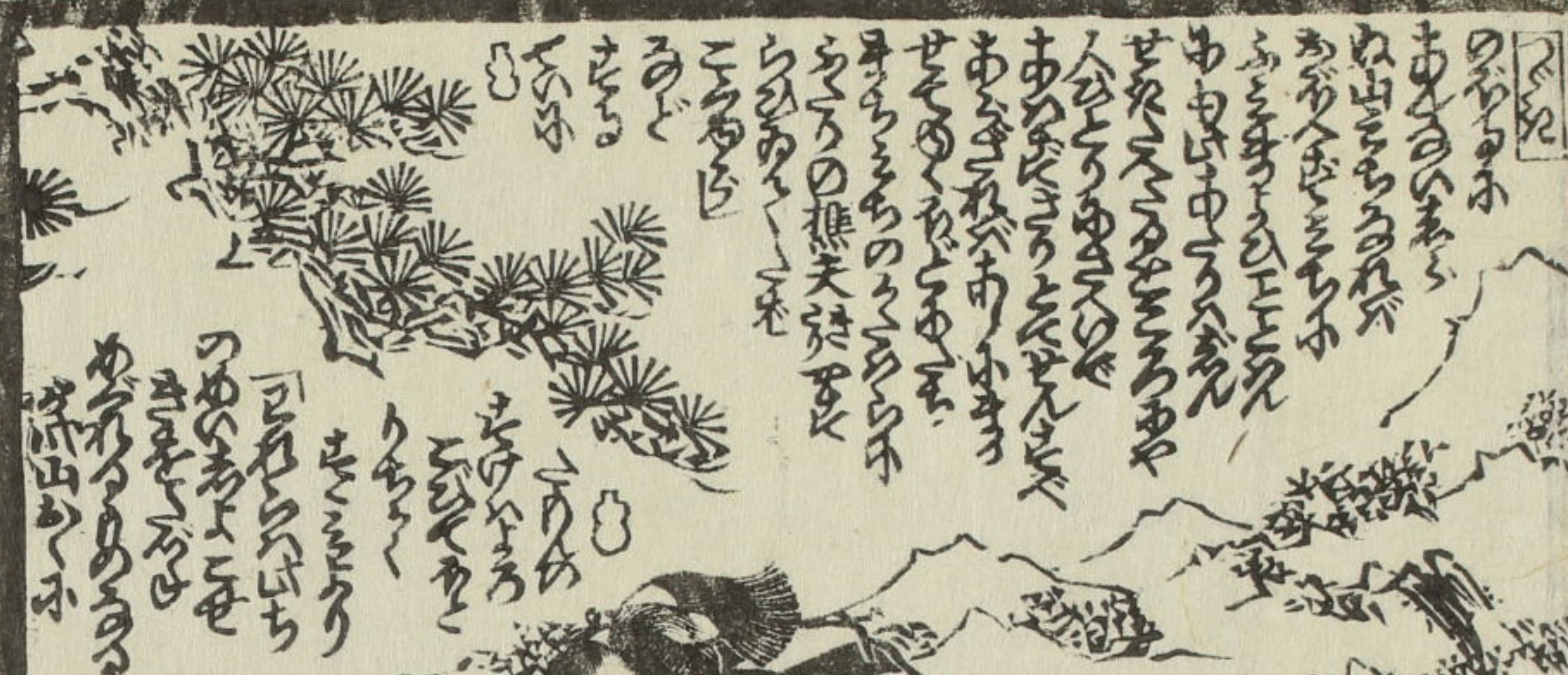
[illegible]

文
日
記

[illegible]



のちのち
 あまのいまだ
 ゑ山さるるね
 あまふだもち
 ふとまうひにえん
 もやは中ころん
 せぬえりなむらや
 人ふとうあそび
 あつたきうとせんは
 あまふだもち
 せめくちよふ
 まるもちのこあら
 らこの樵夫は
 らのめし
 こらあは
 めど
 さき
 てのめ



はるのけり
 可れのかち
 つゆのあよこせ
 きまてあは
 われるものなる
 深山かくみ

乙のうさ
 うさのうさ
 をあやどり
 在りのうさ
 よさのうさ
 加賀のうさ
 加賀のうさ
 うさのうさ

乙のうさ
 うさのうさ
 をあやどり
 在りのうさ
 よさのうさ
 加賀のうさ
 加賀のうさ
 うさのうさ

[illegible][illegible]

刀
月
己
亦

文
日
記
六



1750
 1751
 1752
 1753
 1754
 1755
 1756
 1757
 1758
 1759
 1760
 1761
 1762
 1763
 1764
 1765
 1766
 1767
 1768
 1769
 1770
 1771
 1772
 1773
 1774
 1775
 1776
 1777
 1778
 1779
 1780
 1781
 1782
 1783
 1784
 1785
 1786
 1787
 1788
 1789
 1790
 1791
 1792
 1793
 1794
 1795
 1796
 1797
 1798
 1799
 1800

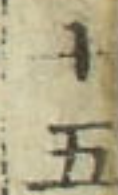
上
け
き
き
き
き

[illegible]

あやふ
とあらうの
ついでに
りてゐる
まづうへ
ねむけを
ひらきさ
くはせぬ
すゆらで
まづくと
まづろこ
ちよと

おのれも
うき世は
さかまた
いそぐく
あるひと
の上臈
くらげん
あらかし
いそぐく
さき

(田七)
うき世
うき世
うき世







新編九尾傳 十六編 種彦作	室町源氏物語卷 十六編 種彦作	假名恒公書 十六編 種彦作	童話妙々車 十六編 種彦作	傳傳幻日記 十六編 種彦作	鳥屋士口前 十六編 種彦作
鳥屋士口前 十六編 種彦作	室町源氏物語卷 十六編 種彦作	假名恒公書 十六編 種彦作	童話妙々車 十六編 種彦作	傳傳幻日記 十六編 種彦作	鳥屋士口前 十六編 種彦作

謀鰥樓國貞画



魚永春水保

〆七てん
 引つたるゆゑ
 伊方おまへも
 〆七てん
 引つたるゆゑ
 伊方おまへも

